

# 令和2年9月 データから見た業界の動き

## ■ 概 況

9月の山梨県内のD I値は、業種全体で売上高は▲58ポイント（前年に比べ▲36）、収益状況は▲46ポイント（前年に比べ▲34）、景況感▲54ポイント（前年に比べ▲38）となり、未だ回復の兆しは見えない状況にある。

製造業では、売上高▲65（前年に比べ▲50）、収益状況▲60（前年に比べ▲45）、景況感▲65（前年に比べ▲45）となった。

菓子製造業は和菓子、洋菓子、冷菓共に好調が続いており、麺類製造業でも個人の観光客が増え始めたため、お土産用品を中心に売りが回復。家具製造業では、前年同月と同程度まで売りが回復しているとの報告がされた。一方、織物、金属製品、一般機器・電気機器では回復していると回答する事業者はごく一部で、展示会・イベントの中止、営業機会の損失、海外への輸出規制が続いているため、売上は前年同月比▲50%～60%減少との報告が大半を占める状況であった。

非製造業でも、売上高▲53（前年に比べ▲26）、収益状況▲37（前年に比べ▲27）、景況感▲47（前年に比べ▲34）と製造業と同様に全ての項目で減少となっている。

国の景気浮揚策の一環として行われているGoToトラベルキャンペーンにより、連休中はホテル・旅館の利用が伸び、関連する食糧品の売上も一部で改善が見られた。また、国の支援策や在宅の増加、山梨県によるテレワークや感染予防対策に係る設備の補助金などの効果により、電気機械器具小売業、事務機器小売業では前年に届かないが回復を実感しているとの報告がされた。

ただし、人の動きは出てきたものの、個人消費は先行きの収入不安からこのまま伸びていくとは考えにくく、民間の設備投資が落ち込んでいることから建設業界も先行きを注視している状況との報告であった。

この先、コロナウイルスの終息が経済再生の鍵を握っていることは間違いないが、消費活動の支援と共に中小企業者・小規模事業者に対する経営基盤を強化するための支援が重要であると考えられる。中央会では組合を中心に中小企業経営にかかる支援事業を強化していくこととしている。

## ■ 業界からのコメント （業界ごとの詳細は、以下のコメントを参照）

### ● 製 造 業

食料品 (水産物加工業)	水産物加工業では、業務用は低迷しているが、ギフト関係は葬儀等の引き出物の需要があったため好調であった。全体の売りは前年同月比82.2%であった。
-----------------	--

食料品 (洋菓子製造業)	菓子製造業では、和・洋・冷菓とも好調で、売り上げは前年同月比132%であった。
食料品 (麺類製造)	9月は個人の観光客が少しずつ戻って来たため、観光土産品の販売が回復傾向となったが、団体旅行が回復しないと全体の売り上げは回復出来ない。
食料品 (酒類製造業)	長引くコロナ禍で、ワインの輸出はほぼ停止した状況にある。国内の飲食店は、度重なる営業時間の規制や自粛により来店客が増えないため、売り上げは減少している。オンライン商談やインターネット通販で販売を展開しているが、業界全体での売り上げは厳しい状況となっている。
繊維・同製品 (織物)	服裏地・傘地・インテリア関係・ネクタイは、前年同月と比較すると発注が少ないが、9月になり少しずつ売り上げが回復してる。
繊維・同製品 (織物)	展示会やイベントが中止となり、商品をPRする機会がないため、売り上げも減少している。
木材・木製品製造	昨年同期と比べ事業量は微減。このまま推移してくればまだ良いが、先行きは不安である。
家具製造	9月は、前年同月と同等まで売り上げが回復した。今後の売り上げ見込みは、経済状況等により変化するため不透明な状況である。
印刷・同関連業	大規模な展示会やイベントが開催出来ないため、前年同月と比較すると印刷物の売り上げが減少している。
窯業・土石 (砂利)	地域毎に需要量が異なり、売り上げに格差が生じている。今後は繁忙期を迎えるため工事量・受注量ともに増加すると思われる。
窯業・土石 (山碎石)	停滞した状況となり、大きな変動はない。

鉄鋼・金属 (金属製品製造業)	組合には海外へ製品を輸出している企業も多く、コロナの影響で取り引きが制限されているため、売り上げは前年同月比▲50%となっている。
鉄鋼・金属 (金属製品製造業)	組合員は小規模事業者で受注生産を行っている企業が多いため、親会社からの発注に左右され、前年同月よりも売り上げは減少している。
一般機器 (業務用機械器具製造業)	半導体関連の受注が少しずつ回復傾向であるが、業界全体では未だに厳しい状況が続いている。
一般機器 (生産用機械器具製造業)	コロナの影響により受注が減少しているため、前年同月よりも売り上げは減少。働き方を調整し、雇用調整助成金を活用している企業もある。今後の見通しについても不透明な状況である。
電気機器 (電気機械部品加工業)	配電盤製造業では昨年同月よりも売り上げは減少した。コロナの影響により、今後の売り上げも減少傾向となる見込みである。
電気機器 (電気機械部品加工業)	機械器具製造業では、企業により少しずつ売り上げが回復しているが、業界全体では未だに厳しい状況が続いている。
宝飾(研磨)	9月は宝石研磨部会を中心に展示会(第71回ジューストーンフェア)を開催した。久々の実施開催であったことから、売り上げは好調であった。
宝飾(貴金属)	展示会やイベントの開催での販売が出来ないため、前年同月比▲60%の売り上げとなっている。オンラインでの商品販売は厳しい状況である。

## ● 非製造業

卸売(紙製品)	経済の停滞により物流量が減少。梱包材や包装材に使用される紙製品の量が減少し、当業界の売り上げは減少している。
卸売(ジュエリー)	高額商品の多い宝石販売は、お客さんとの対面式での販売で、実際に来店して、宝石を見てから購入を決めるため、オンライン販売で商品の販売は厳しい状況である。

小売（食肉）	前年同月比よりも売り上げは減少しているが、GoToトラベルキャンペーンの影響で観光地のホテル・旅館や飲食店が多少持ち直してきている。そのため、悪いながらも少しずつ売り上げは回復傾向にある。
小 売（水産物）	無尽や冠婚葬祭での飲食が減っているため、業者向けの売り上げが減少した。宿泊業への売り上げも昨年同月よりも減少した。
小 売 （電気機械器具小売業）	やまなし・グリーンゾーン認証に基づく助成金対策により、地域店ベースでは、エアコン及び空気清浄機等の需要が拡大し、9月度も前年同月比と同等の売り上げとなった。
小 売 （事務機小売業）	山梨県のコロナ対策補助金の効果もあり、9月の売り上げは増加した。また、コロナの影響で営業活動が減少している企業が多く、会社内部の見直しを積極的に行っているため、倉庫の片付けや事務所内レイアウト変更等による備品関係の需要が多くなり、売り上げは回復傾向となったが、前年同月比は▲30%であった。
小 売 （ガソリン）	外出が増えたことから9月も徐々に売り上げは回復傾向になってきたが、観光地での売り上げについては未だに厳しい状況が続いている。
商店街	今年度は組合での事業は中止していたが、12月に年末キャンペーンを実施する事業計画を立てている。
不動産取引業	新築物件の建設は減少しているが、組合では取り扱っている分譲地の販売を積極的に行い、売り上げを伸ばしていきたい。
宿 泊 業	9月は、GoToトラベルキャンペーンの効果もあり、4連休は満室となるホテルも多かった。秋の観光シーズンに入るため、今後の利用客の増加に期待したい。
美 容 業	個人店は、固定客との信頼関係のもとコロナ対策等、衛生管理に気を付けて営業している。業界では、新規創業する若手経営者が去年より減少しているため、新規組合加入者数も前年比減となっている。若い創業者への支援を社会全体で考えていきたい。

警 備 業	<p>イベント警備の中止・縮小により、警備員を土木建設工事等の警備業務へシフトし、これまでに抑制していた土木建設工事等の受注量を増加させ、警備員の稼働率を向上させた。これにより、売上高は前月よりも向上したものの、イベント警備に比較して利益幅が少ないため、結果として利益率は前年よりも落ち込んだ。雇用関係では、依然として減少したまま不安定な状況であり、今後土木建設工事等の増加が見込まれる中、警備員不足が深刻化している。</p>
建設業（総合）	<p>9月の県内公共工事は、前年同月比、件数19%、請負金額では15%それぞれ増加した。9月末累計では、件数は12%増加しているものの、請負金額は1.5%とわずかな増加にとどまっている。</p>
建設業（型枠）	<p>9月は例年通りの仕事が確保出来た。公共工及び民間工事が減少しているため、10月以降の仕事に関しては例年よりも減少する見込みである。</p>
建設業（鉄構）	<p>県内の発注物件は少ないが、県外物件の受注により業界の景況は二極化している。全国的な販売価格の低下により、売上高は減少傾向にある。</p>
設備工事 （電気工事）	<p>電気工事業は人々の暮らしや建物がある限り仕事はなくなることはない。しかし、組合員の高齢化も進み、後継者・人材不足が今後の課題となっている。</p>
設備工事 （管設備）	<p>公共事業により収益は増加しているが、コロナの影響により材料等の売上げが減少している。今後は民間工事の減少が懸念される。</p>
運輸 （タクシー）	<p>飲食店の利用客や観光客は多少であるが回復しているが、タクシーの利用客は未だに戻ってこない。観光シーズンである10月以降も前年同月の売上げよりも減少する見込みである</p>
運輸 （バス）	<p>予定していた学校の修学旅行やイベントが中止となった影響により売上げは減少し、大きな痛手となっている。</p>
運輸 （トラック）	<p>コロナウイルスの影響により、荷主企業とドライバーの接触を避けるため、時間指定で積込・積み降ろしを行わなければならないことが増え、労働時間に影響がある。働き方改革や標準的運賃の告示など、業界全体が好転しそうな兆しが見えてきた中で、コロナの影響により折角の好機も逸しそうである。未だ先行きが不透明な状況ではあるが、まずは最大限の経費を削減し、従業員の雇用維持・荷主企業への還元等を地道に進めていく。</p>

■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値（好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値）

対前年・前月・当月	製 造 業			非 製 造 業			合 計		
	2019/9	2020/8	2020/9	2019/9	2020/8	2020/9	2019/9	2020/8	2020/9
売 上 高	-15	-70	-65	-27	-33	-53	-22	-48	-58
収 益 状 況	-15	-65	-60	-10	-40	-37	-12	-50	-46
景 況 感	-20	-65	-65	-13	-37	-47	-16	-48	-54

※（（良数値÷対象数）×100）－（（悪数値÷対象数）×100）＝D. I 値

